



H29年度

地方自治体向けGISパッケージソフトウェア開発
GISクラウドサービスの開発・運用
M*Board（サイネージシステム開発・販売）
地図データ変換・地図データエントリ等

- 代表者名 代表取締役 田中 進
- 設立年月日 2003年（平成15年）4月28日
- 所在地 〒401-0016 山梨県大月市大月町真木1892-1
- TEL 0554-21-2511
- FAX 0554-21-2501
- E-Mail ishii@mars-corp.net
- URL https://www.mars-corp.net/
- 業 種 情報サービス業
- 資本金額 1,000万円 ■ 従業員数 7人

インタビュー

代表取締役
田中 進公共システム事業部
石井 健明

テーマ

複数のフェイスブック投稿をサイネージ等に表示するシステムの開発

指定した複数のフェイスブック投稿を自動収集してホームページ／サイネージの双方に情報配信が行えるシステムを開発し、サイネージへの表示とユーザの要望にフレキシブルにカスタマイズ対応できる体制を整えることができた。このシステムは「独自性・独創性の発揮」をし、付加価値を向上させることになり、利用者にローコストで多角的な情報発信を提供できるなどの「顧客満足度の向上」に繋がり、さらには「新規顧客層への展開」「商圏の拡大」に繋がるものとなる。



パソコン、スマホに限なく普及して、インターネットを介し人間関係を構築できるWebサービス・SNSは全盛の状況にある。情報の発信・共有・拡散といった機能を多くの人が日常的に利用し謳歌している。ただそれは第三者に見られることなく、個人間でのメッセージのやり取りが中心となっている。

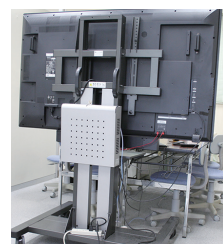
弊社では、平成29年度より複数の指定したフェイスブックページ（Facebook）の更新情報を自動で取得し、人手を介さずインターネットブラウザ上で表示する仕組み「M*Board（エムボード）」のアルゴリズムを考案し、外注にソフトウェア製作を依頼してシステムの構築と市場導入を進めている。行政の市政情報、観光情報、防災情報などの情報を自動収集してインターネット上に発信。納入先からは、分散されていたSNSでの情報配信を1つのボード（画面）として情報配信することにより、住民サービスの向上に繋がったと一定の評価もいただいた。これから様々なM*Boardの周知に取り組んで行くことを考えている。

その一方で、FacebookやM*Boardにアクセスしない年齢層へ情報提供したい、という強いニーズがあり、「公共施設にあるデジタ

ルサイネージ（大型ディスプレイ）に同じ情報を提供できないか」という要望を受けて、更新情報をタイムリーに伝えるM*Boardのデジタルサイネージへの拡張に発展した。例えばこのサービスの存在も知らない観光客に旅先で欲しかった情報を提供することができる、ということ。周辺観光施設への周遊等を促すことにも繋がるなど、効果は高いものとなる。

想定されるユーザーは地方公共団体から鉄道社内や駅構内などの公共交通機関、大小の小売業、金融、学校まで多岐にわたるため、様々なサイズや形態のデジタルサイネージシステムへの対応、そしてカスタマイズ要求の多様化も充分予測される。例えば、M*Boardをサイネージに表示する場合に「投稿一覧の文字情報をテロップ表示してほしい」「サイネージのディスプレイの向きを縦置き（または横置き）にしたい」「M*Board以外のコンテンツ（広告など）を同時に表示するために、表示する枠を2列に変更したい」などなど、これらは既に各自治体から出て来た要望であり、この要望に合わせてカスタマイズを行う必要性が高いことがわかった。

大きな可能性と発展性をもつこのシステム。柔軟な発想でさらに広いフィールドへと広げていきたいと思っている。



このようにディスプレイ裏に取り付ける



セットアップボックス

M*BoardのMはミックス（Mix）のM



イメージ1



イメージ2

田中社長は楽しくて仕方ない、といった様子でM*Boardのことから語ってくれた。

「M*BoardのMはミックス（Mix）のMなんだよ。もうずっと、『当社でサイネージやりたいね』と言ってたんですよ。」

サイネージにぴんとこない当方には分かりにくい話だったが、サイネージという名の大型ビジョンが見えてくると、田中社長の楽しさが徐々に伝わってきた。ひとつのビジョンに複数の情報—それがMix。それも、たえず更新されていく。ポンと触ってその情報の詳細部へ。また次のタッチで新たな情報へと。SNS不馴れ人であっても、気軽に利用し、楽しめる。少しずつ、分かってきた。

もともと地図ソフトウェア（GIS）の開発・販売・運用サポート等を行ってきた会社である。それが

自治体向けの商品でもあり、多くの企業・自治体の相談を受けることも多い。その中でこのサイネージ・Mix・気軽にタッチなどの構想が次々と田中社長のなかに湧き上がってきたことは想像できる。

各自治体にしても、すでにホームページもSNS利用も割合充実してきている。ページ作りや情報発信も熱心に取り組んではいる。ただ利用者から見た時、情報自体はなかなか更新されず、ほとんど固定のままのことも多い。欲しい情報を見つけることも、特に初心者であれば探すことが難しい場合もある。発信側にしても、マメな更新が大切とわかっていても、時間と人材をそう多く割くことは難しい。スタート時の意気込みとは裏腹に、しだいに耀きを失っていくHPの何と多い事か、と思い当たった。

持ち込まれる要望をずっと大きな形で、さらに夢も含んで返してあげるプロジェクト



社内風景

例えば、道の駅にすえられた大型ディスプレイ。観光スポットや、おみやげ、おすすめ近郊グルメなどなど、活動的な利用が出来る。

そして、その情報は担当の各Facebookから配信されているということが、実はとても重要なことである。気軽にできる投稿だが、たしかな身元の判人であること。これが、広く公開する上でリスクを排除する大切なポイントとなる。さらに日頃個人で行っているように、気軽に更新が出来ることもありがたい。それは、ニュースとしての発信も出来るということで、「今すぐ伝えたい、届けたい」情報の発信が可能ということ。「残りあと5個です。いかがですか!」という旬な情報を発信できるわけだ。

まだまだ、限定的な場所でのお披露目なのだが、田中社長は納得していない。

「一つの地域（道の駅・観光地）の中で、同じ地

域の情報ばかりが流れても、やっぱり狭いよね。実は欲しい情報は、次の道の駅のことだったり、隣の県のことの場合もあるよね。」

というように、どんどん広がります。

「例えば東京ドームとか羽田空港にサイネージを置く、というようにね。」

にこにこ話していることは、田中社長の場合、いつも夢物語ではなく、ここから数歩先のことを話すことが多い。

聞き手としても、思わず注文もしたくなる。ポイントの天気をつたった今の情報としてその地方の人たちに知らせてあげたい、とか、最近多い災害に関して、対応策の面で旬情報は使えるのではないかな、など。すべて、もう織り込み済みのプロセスにあるようだ。

このプロジェクトは夢がどんどん膨らんでいく可能性の高いものであることを、実感してしまったというわけだ。そして、田中社長はその延長線上の、あるいはまったく別の新しい夢を考えて、またにこにこしているようなのだ。



外観